

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01219

研究課題名（和文）Managing Mass Death and Grief in Disaster Communities: Lessons Learned from Japan, Indonesia and France

研究課題名（英文）Managing Mass Death and Grief in Disaster Communities: Lessons Learned from Japan, Indonesia and France

研究代表者

ボレー セバスチャン（Boret, Sebastien Pennellen）

東北大学・災害科学国際研究所・准教授

研究者番号：70751676

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、東日本大震災、インド津波のインドネシア、フランス熱波の3つの巨大災害において、社会が犠牲者の遺体にどのように対処しているかを調査した。遺体の処理、埋葬、犠牲者の追悼式や記念碑、生存者の心理的サポートなど多岐にわたった。生存者、犠牲者の家族、第一応答者、宗教指導者、葬儀屋、犠牲者の遺体を処理する自治体などを対象に質的調査を実施した。また、行政などのアーカイブ調査も行った。このデータから、異なる文化や社会における、このような「大量死事件」の取り扱いの成功と失敗を明らかにすることができた。本研究で得られた教訓は、今後南海地震や東京地震で数万人の遺体を処理するための準備に役立つと思われる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が刺激となり、日本、フランス、インドネシアの大学や研究者の協力が実現した。研究成果は、雑誌記事、特集号、ブックチャプター、国内・国際会議などで発表されている。これらの教訓は、今後30年以内に発生する南海トラフ地震や首都直下型地震における大規模災害の対応準備に貢献するはずである。

研究成果の概要（英文）：This study examined how societies dealt with the bodies of victims of three major disasters: the Great East Japan Earthquake, the Indian Tsunami in Indonesia, and the French Heatwave. The research covered a wide range of issues, including the disposal of bodies, burials, memorials and commemorations of victims, and psychological support for survivors. Qualitative research was conducted with survivors, family members of victims, first responders, religious leaders, funeral directors, and local authorities disposing of victims' bodies. The researcher also carried out archival research in the facilities of government and other organisations involved in the management and remembrance of the victims. The data allowed us to identify successes and failures in handling such 'mass death incidents' in different cultures and societies. The lessons learned from this study will be helpful in preparing for handling tens of thousands of bodies in future Nankai and Tokyo earthquakes.

研究分野：Cultural Anthropology

キーワード：大量死 熱波 災害科学 宗教 防災 脆弱性 東日本大震災津波 スマトラ島沖地震 ヨーロッパ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 世界中で過去 20 年間 (1996 年～2015 年) に自然災害によって亡くなった人の数は、135 万人にのぼる。それに際し、両親、友人、そして社会が、悲しみに対処しなければならなかった。個人の喪失という事態に直面した場合、彼らの遺体を管理し、死を追悼することの成功あるいは失敗は、災害の負の影響 (トラウマ、うつ病、苦しみ、疫病など) を軽減または増加させる可能性に繋がる。

(2) 日本の災害専門家は、今後 30 年以内に起こると予測されている南海トラフ地震や首都直下型地震で、何万人もの人々が死亡することを懸念している。避難手順やインフラを改善するための対策が取られている一方で、大量死の管理とその後の追悼という大きな課題への関心は比較的低い。本研究では、2011 年の東日本大震災 (犠牲者 15,594 人)、2004 年インド津波のインドネシア・アチェ (犠牲者約 16 万人)、2003 年のフランス熱波 (犠牲者 14,802 人) という 3 つの巨大災害から教訓を得て、このギャップを解消することを目指す。

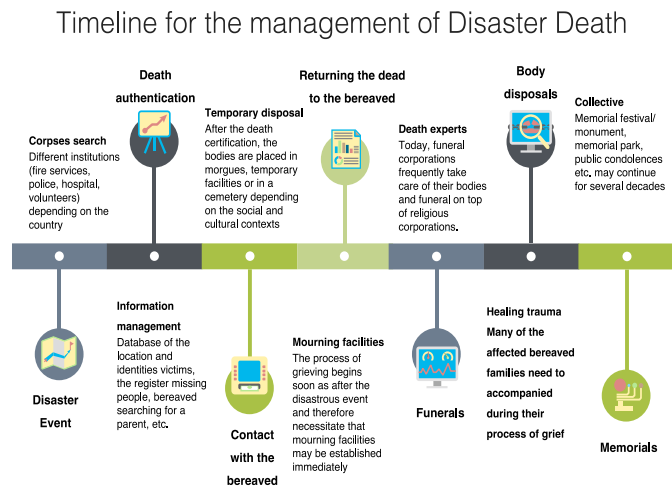


図 1 災害における犠牲者の管理の流れ

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の第 1 の目的は、大量死における喪失のプロセスを記録し、社会文化的理解を提供することである。3 つの異なる社会でデータを収集することで、それぞれの文化圏で大量死の管理に見られる共通点と相違点を明らかにする。さらに、この研究では、災害犠牲者が「通常の」死者儀礼に与える影響も検証する。

(2) 本研究の第 2 の目的は、これら 3 つのケーススタディの成功と残されたチャレンジを評価することである。成功例としては、災害への備え、適応、文化的に配慮した大量死への対処などが考えられる。一方、チャレンジ例としては、犠牲者だけでなく、その遺族やコミュニティが経験した喪失を長期的に追悼するための対処能力の欠如が考えられる。研究結果は、政策立案者、コミュニティのリーダー、その他の災害管理関係者に対して、一連の提言を構築するための最初のステップとなり得る。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究は、エスノグラフィック・フィールドワークの手法に基づく。遺体の管理にあたった人々、遺族、そのほか関連する広範な社会構成員を対象にインタビュー調査が行われた。また、災害の記念と犠牲者の追悼を行う公的な儀式に参加し、その記録と分析を行うことで、災害の影響を軽減するために必要な要素を明らかにする。

(2) エスノグラフィックデータを補完するために、アーカイブ、政府報告書、メディア、研究論文から二次資料を収集した。この作業は、緊急時の死者の管理に関する文献調査ならびに、Covid-19 パンデミックの2年間（2020～2022年）の現場へのアクセス不足を補うために不可欠であった。

#### 4. 研究成果

##### (1) 大量死への対応～学際的な視点からの予備的な教訓

本研究では、日本・インドネシア・フランスの災害事例における犠牲者の遺体管理について考察した。その結果、膨大な数の犠牲者への対応は、遺体を処置する施設（病院、遺体安置所、火葬場）の被害の大きさによってさらに複雑な状況に陥り、遺体処理が大幅に遅れてしまったことが明らかになった。日本で従来行われてきた防腐処理を行わない火葬では、数千人規模の遺体を一度に処理することは不可能であり、国や自治体は火葬できない犠牲者の遺体を仮埋葬することで対応した。その結果、仮埋葬は遺族だけでなく、市の職員にとっても負担やトラウマの原因となったことが示唆された。最後に、今後の日本および世界の危機において、大量死に対処するための可能な解決策について考察し、結論とする。インドネシアでは、遺体の数が多く、能力不足のため、個別墓の習慣に従った犠牲者の数に対応することは不可能であった。そのため、政府は集団墓地を建設することで対応した。一部の遺族は、遺体を回収して個別の墓への埋葬を行ったが、ほとんどの家族は、現在も集団墓地を祈りと追憶の場として利用している。最後に、フランスでは、日本と同じように市場を臨時の死体安置所として利用した。犠牲者は最終的に家族の墓か、自治体が所有する共同墓に埋葬された。日本やインドネシアとは異なり、フランス熱波の中で発生した集団死は政治的にタブーとされ、国によって追悼されることはない。



【写真】東松島市仮集団墓地 2011.08.13 著者撮影

##### (2) 災害後のコミュニティの社会的復興における災害記憶と追悼の役割

大災害の集団的経験の後、日本とインドネシアの事例では、悲劇とその犠牲者を追悼し、記憶するための様々な試みが行われた。そのひとつが、喪主、被災者、政治家、宗教家、その他の訪問者が悲しみを整理し、死者に敬意を表し、被災したコミュニティとの連帯を表明し、大災害を記憶するためのモニュメントの建立であった。追悼のプロセスは災害の直後に始まるにもかかわらず、死者のための記念碑は災害から何年も経ってから建てられた。その理由は、慰霊碑がしばしば「記憶装置」としてのみ考えられているためかもしれない。しかし、本研究では、慰霊碑が遺族にとって実用的な役割を果たしていることを示し、その有形（碑とその周辺）および無形の次元（悲しみ、社会的絆、記憶）の両方の重要性を指摘した。



【写真】閑上寄り添いお地藏さんと日和山、名取市



災害後のコミュニティが被った損失の影響を軽減するために、慰霊碑が補完的な追悼実践の土台を構成するという考え方に基づき、以下にいくつかの提言を提示する。第1の提言は、死者のための記念碑は、達成や目標ではなく、悲しみと社会再建のプロセスの一部とみなすべきだというものである。第2の提言は、紛争を避け、死と記憶に関する複数の見解や信仰を表現するために、単一の石碑ではなく、複数のモニュメントを設けることである。第3の提言は、死者のための記念碑を、災害の記憶と教育の中心的な触媒として利用することである。

### (3) 破壊と復興の狭間で ——災害メモリアルランドスケープの過渡性について

本研究では、追悼の風景の本質について明らかにするため、日本とインドネシアにおいて、コミュニティの犠牲者のための公式・非公式な追悼場所の創造と変容につながった政治的・文化的プロセスを調査した。死者の追悼が、私的および公的な追悼施設において、被災した土地でどのように成立してきたかを示している。本研究は、これらの追悼の場が、災害前と災害後のコミュニティの間の連続性と中断点の役割を果たすダイナミックな景観を形成し、その社会的・文化的復興に不可欠であると結論付けている。



【写真】シロン集団墓地、バンダアチェ、インドネシア  
2013.12.25 著者撮影

### (4) 災害遺構への対応 ——遺体・魂・遺産について

本研究の成果の1つは、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）で国際ワークショップ「The Practices and Ethics of Dealing With Disaster Remains and Cultural Heritage」が2回開催され、発表された各論文を特集号としてまとめたことである。参加者は、国内外の研究者、学生、アーティスト、市民等からなり、映画、プレゼンテーション、展覧会、パフォーマンスなどのケーススタディの発表が行われた。講演者と聴衆は、身体的、精神的、物質的な災害遺物を救出し、保存するための実践的なプロセスを探求した。また、これらのプロセスが集団のアイデンティティや表現、集会的記憶、コミュニティの絆、教育や知識に与える影響を紹介し、より広い倫理観について議論し、社会が災害犠牲者の遺体をどのように扱っているかについて幅広く議論した。最後に、災害時の人間以外の遺物の問題について、災害後の遺物がたどった道筋について興味深い議論が展開された。結論としては、社会文化の変化のベクトルとしての災害の代理性、災害後の遺物の生成、そして災害に対する人間の反応をめぐる倫理的問題を明らかにしている。災害遺体・慰霊・遺構は過去の遺物ではなく、新たな課題と機会をもたらす新しい存在であると考えられるべきである。



【写真】2003 熱波の犠牲者のお墓、

ティアス共同墓地

(パリ地方)、フランス 2019.5.19 著者撮影

### (5) 災害の経験および復興と、個人と社会の脆弱性について

特別なニーズを持つ人々やその他のマイノリティのように、災害が起こる前から存在する脆弱性もある。また、災害そのものに起因する脆弱性もある。新たな脆弱性には、緊急避難、仮設住宅、喪失（物質的、非物質的）経験に加え、家族の死に耐えなければならない遺族の悲しみやトラウマがある。同じことは、大量死を被ったコミュニティや社会全体の脆弱性についても言える。いずれの場合も、脆弱性が致命傷になることはない。社会が災害の犠牲者とその遺族を処理する準備を整えれば、短期的にも長期的にも災害の影響は小さくなる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 13件／うち国際共著 5件／うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Suppasri Anawat, Kitamura Miwako, Tsukuda Haruka, Boret Sebastien P., Pescaroli Gianluca, Onoda Yasuaki, Imamura Fumihiko, Alexander David, Leelawat Natt, Syamsidik	4. 巻 10
2. 論文標題 Perceptions of the COVID-19 pandemic in Japan with respect to cultural, information, disaster and social issues	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Progress in Disaster Science	6. 最初と最後の頁 100158 ~ 100158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pdisas.2021.100158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ボレー ベンメレン セバスチャン	4. 巻 2021
2. 論文標題 東日本大震災における遺体の文化的及び社会的課題について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文化人類学会研究大会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 A09 ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jasca.2021.0_A09	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Julia Gerster, Sebastien Penmellen Boret, Andrew Gordon, Ryo Morimoto, Akihiro Shibayama	4. 巻 1
2. 論文標題 Researching the Merits of Disaster Digital Archives in Education during the Covid-19 Pandemic in Japan: The Case of the Japan Disasters Digital Archive (JDA) and its Geolocation Function	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 AIWEST-DR2021 Proceedings	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Gerster J., Boret Penmellen S., Shibayama A.	4. 巻 2(1)
2. 論文標題 Out of the Dark: The Challenges of Branding Post-Disaster Tourism Ten Years after the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 EATSJ - Euro-Asia Tourism Studies Journal	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Boret, Penmellen Sebastien, Yu Fukuda.	4. 巻 1
2. 論文標題 Pekan Peringatan ke -17 Tsunami Aceh " Empowering Lesson Learned from Indian Ocean Tsunami "	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Handbook of Disaster Ritual: Multidisciplinary Perspectives, Cases and Themes	6. 最初と最後の頁 510-513
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Boret S?batien Penmellen	4. 巻 4
2. 論文標題 A Commentary on Ilan Kelman ' s Disaster by Choice	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Public Anthropologist	6. 最初と最後の頁 115 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/25891715-04010003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Suppasri Anawat, Kitamura Miwako, Tsukuda Haruka, Boret Sebastien P., Pescaroli Gianluca, Onoda Yasuaki, Imamura Fumihiko, Alexander David, Leelawat Natt, Syamsidik	4. 巻 10
2. 論文標題 Perceptions of the COVID-19 pandemic in Japan with respect to cultural, information, disaster and social issues	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Progress in Disaster Science	6. 最初と最後の頁 100158 ~ 100158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pdisas.2021.100158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Boret Sebastien Penmellen, Gerster Julia	4. 巻 630
2. 論文標題 Social lives of tsunami walls in Japan: Concrete culture, social innovation and coastal communities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	6. 最初と最後の頁 012029 ~ 012029
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1755-1315/630/1/012029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sebastien Penmellen Boret, Anawat Suppasri, Erick Mas, Elizabeth Maly	4. 巻 630
2. 論文標題 Preface	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	6. 最初と最後の頁 011001 ~ 011001
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1755-1315/630/1/011001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takakura Hiroki, Boret Sebastien Penmellen	4. 巻 7
2. 論文標題 The Value of Visual Disaster Records from Digital Archives and Films in Post-3/11 Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Sustainable Future for Human Security	6. 最初と最後の頁 58 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24910/jsustain/7.3/5865	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato, Shosuke, Suppasri, Anawat, Boret, Sebastien Penmellen, Nakagawa, M., and Fumihiko Imamura	4. 巻 273
2. 論文標題 Archiving Disaster Remains: The Case of "sasanao Factory" in Yuriage Village, Natori City, Miyagi Prefecture	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	6. 最初と最後の頁 1, 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1755-1315/273/1/012044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibayama, Akihiro and Boret, Sebastien Penmellen	4. 巻 273
2. 論文標題 Transforming the Archives of the Great East Japan Earthquake into Global Natural Disaster Archives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	6. 最初と最後の頁 1, 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1755-1315/273/1/012039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Imamura, Fumihiko, Boret Penmellen, Sebastien, and Suppasri, Anawat, and Muhari, Abdul	4. 巻 1
2. 論文標題 Recent occurrences of serious tsunami damage and the future challenges of tsunami disaster risk reduction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Progress in Disaster Science	6. 最初と最後の頁 1, 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pdisas.2019.100009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Sebastien P. Boret
2. 発表標題 東日本大震災における遺体の文化的及び社会的課題について
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sebastien P. Boret, Kimura Toshiaki
2. 発表標題 Born From Disaster: Dealing with Death, Disaster Remains and Cultural Heritage in Time of Crisis
3. 学会等名 International Conference Dedicated to the 25th Anniversary of CNEAS-TU (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sebastien P. Boret
2. 発表標題 Managing Mass Fatalities During the Crisis of 2011 Japan Disasters
3. 学会等名 International Conference Dedicated to the 25th Anniversary of CNEAS-TU
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Sebastien P. Boret
2 . 発表標題 Managing Mass Death in Times of Multiple Crisis: Lessons Learned from the 2011 Japan Disasters and the Covid-19 Pandemic
3 . 学会等名 NEEDS 20221, North European Conference on Emergency and Disaster Studies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Boret, S.P. and Takako Izumi
2 . 発表標題 Sharing Disaster Experience, Research and Innovation: A Multi-hazard approach for risk management after Covid-19
3 . 学会等名 NEEDS 20221, North European Conference on Emergency and Disaster Studies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Sebastien P. Boret
2 . 発表標題 Dealing with Death and Social Vulnerabilities in Times of Disasters
3 . 学会等名 Culture, Class, Connections: Class and Inequality in the UK and Japan Forum, “ Social Class, Regional Inequalities, and Historical Change ”
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Gerster, Julia, Sebastien P. Boret, Andrew Gordon, Ryo Morimoto, and Shibayama, Akihiro
2 . 発表標題 Researching the Merits of Disaster Digital Archives in Education during the Covid-19 Pandemic in Japan: The Case of the Japan Disasters Digital Archive (JDA) and its Geolocation Function
3 . 学会等名 AIWEST-DR 2021: 13th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名	Natt Leelawat, Penpichaya Lertsakornsir, Passarawan Sritanawatkul, Jing Tang, Anawat Suppasri, Miwako Kitamura, Haruka Tsukuda, Sebastien P. Boret, Gianluca Pescaroli, Yasuaki Onoda, Fumuhiko Imamura, David Alexander, Syamsidik.
2. 発表標題	Affecting Factors on Worriedness: A Perception Study of the Covid-19 Pandemic in Japan
3. 学会等名	AIWEST-DR 2021: 13th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Sebastien P. Boret
2. 発表標題	3.11に何を学ぶか将来のレジリエント社会の構築に向けて
3. 学会等名	地球システム・倫理学会 (The Japan Society for Global System and Ethics)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Sebastien P. Boret
2. 発表標題	The Importance of Disaster Science
3. 学会等名	Pekan Peringatan ke -17 Tsunami Aceh " Empowering Lesson Learned from Indian Ocean Tsunami "
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Boret, Pennellen Sebastien
2. 発表標題	The Bodies of the 3.11 Japan Tsunami
3. 学会等名	Aix Marseille University (招待講演)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 ボレー・ペンメレン・セバスチャン
2. 発表標題 日本の樹木葬 - エコロジーの思想を取り入れた寺院 -
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Boret, Pennellen Sebastien
2. 発表標題 文化の多様性と災害
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Boret, Pennellen Sebastien
2. 発表標題 Temporality of Disaster Landscapes: Des Lieux de Memoire for the Dead of the 2011 Tohoku Earthquake
3. 学会等名 Science Po and Paris University（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Boret, Pennellen Sebastien
2. 発表標題 Ecological Immortality and Ideas of the Afterlife in Japanese Tree Burials
3. 学会等名 National Research Center of France（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Boret, Pennellen Sebastien and Julia Gerster
2. 発表標題 Social lives of tsunami walls in japan: concrete culture, social innovation and memory of coastal communities
3. 学会等名 Aceh International Workshop and Expo on Tsunami Recovery
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Boret, Pennellen Sebastien
2. 発表標題 Identifying 'Places of Memories' of Fishing Communities after the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 Born From Disasters
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 東北大学災害科学国際研究所	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 230
3. 書名 東日本大震災からのスタート	

1. 著者名 Nabil Chang-Kuan Lin	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Center for Multi-cultural Studies, National Cheng Kung University	5. 総ページ数 414
3. 書名 Religio-cultural Pluralism in Southeast Asia: Inter-communion, Localization, Syncretisation and Conflict	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Death in Times of Crisis (DETOC)  
<https://ditoc.hypotheses.org/>  
 災害人類学ユニット  
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>  
 研究紹介DB  
<https://researchmap.jp/7000012579/?lang=japanese>  
 ResearchGate  
<https://www.researchgate.net/profile/Sebastien-Boret>  
 Academia.edu  
<https://tohoku.academia.edu/SebastienBoret>  
 Death in Times of Crisis (DETOC)  
<https://detoc.hypotheses.org>  
 災害人類学ユニット  
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>  
 研究紹介DB  
<https://researchmap.jp/7000012579/?lang=japanese>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------